

## 平成30年度 道の公共土木事業(直営)における木材使用実績について

### 1 木材使用実績(原木換算)

(単位:m3)

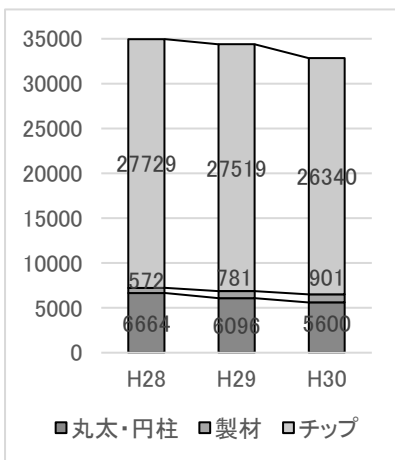
区分	丸太・円柱(m3)		前年度比	製材(m3)		前年度比	チップ(m3)		前年度比
農政部	H29	6096	-	H29	781	-	H29	27519	-
	H30	5600	92%	H30	901	115%	H30	26340	96%
建設部	H29	205	-	H29	3961	-	H29	12	-
	H30	341	167%	H30	4860	123%	H30	37	311%
水産林務部	H29	1048	-	H29	1713	-	H29	1239	-
	H30	781	74%	H30	969	57%	H30	4064	328%
合計	H29	7348	-	H29	6455	-	H29	28771	-
	H30	6722	91%	H30	6731	104%	H30	30441	106%

※端数処理により合計が一致しない場合がある。

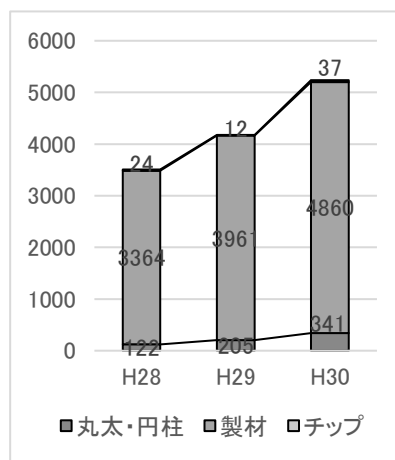
※製材及びチップの使用実績は(参考)の方法により原木換算したもので、これまでの表記とは異なる。

### 2 各部の状況

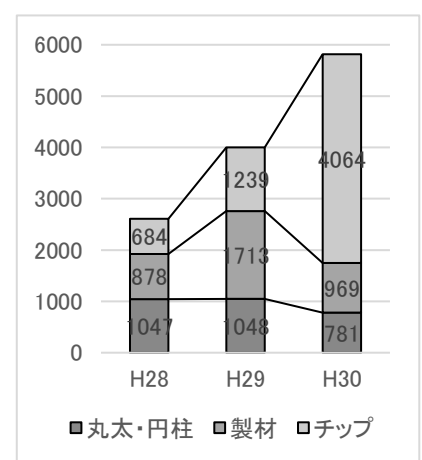
#### (1) 農政部(単位:m3)



#### (2) 建設部(単位:m3)



#### (3) 水産林務部(単位:m3)



工事件数が H29 年度の約 6 割に留まったことで総使用量は減少したが、1 件あたりの使用量が多い製材では 2 年連続で使用量が増加。

工事件数の増加により丸太・円柱及び製材での使用量が増加。

H30 年度は治山事業における工事件数の減少により丸太・円柱及び製材での使用が減少したが、植栽工の件数が増加したことによりチップ利用量が増加。

※1と同様に製材及びチップは原木換算した値を利用。

### 3 重点的に地域材の利用を推進する工種工法における木材使用量(単位:m3, %)

所属部	事業名	重点施設の種類	H29	H30	前年比
農政部	農業農村整備事業	鳥獣被害防止柵	—	—	—
		暗渠排水疎水材	26543	26340	99%
		用排水路工(木杭)	6187	4449	72%
建設部	河川事業、砂防事業	護床、護岸工、親水施設、修景施設	55	92	167%
	河川事業、砂防事業、道路事業	柵工(雪崩予防柵)、柵工(転落防止柵)	13	—	—
	砂防事業	防護柵工(歩道用)	31	5	16%
	街路事業、道路事業、河川事業 砂防事業、公園事業	木柵工(法面保護工)	54	—	—
水産林務部	林道整備事業	柵工(路側保護工)	62	6	10%
		土留工(枠工)※単位:m2	613	370	60%
		法面工(伏工)	1104	173	16%
		排水施設工(面壁)	539	95	18%
		路床排水工、地下排水工(砂利道区間)	597	189	32%
		柵工(有効柵高0.5m以下)	287	414	145%
	治山事業	筋工(土留機能を有しない)	44	30	68%
		防風工	449	267	60%
		落石防止工(緩衝工)	58	—	—
		暗渠排水疎水材(森林整備)	—	—	—
		植栽工(マルチング)	1082	11462	1059%

### 4 コンクリート型枠合板利用実績について

所属部	年度	使用量(m2)	うち道産材(m2)	道産材割合
農政部	平成 29 年度	2,876	61	2%
	平成 30 年度	934	781	84%
建設部	平成 29 年度	100,155	21,559	22%
	平成 30 年度	138,355	46,166	33%
水産林務部	平成 29 年度	28,043	26,997	96%
	平成 30 年度	31,736	31,045	98%
合計	平成 29 年度	131,074	32,346	25%
	平成 30 年度	171,025	58,710	34%

(参考)

原木換算方法

・製材→原木

製材での使用実績をA(m3)として

原木量(m3) = A ÷ 63.7(%) より算出

(平成 28 年木材需給表 木材需給表の作成方法(2)丸太換算率 林野庁より引用)

・チップ→原木

チップでの使用実績をB(m3)として

原木量(m3) = B × 0.3 より算出

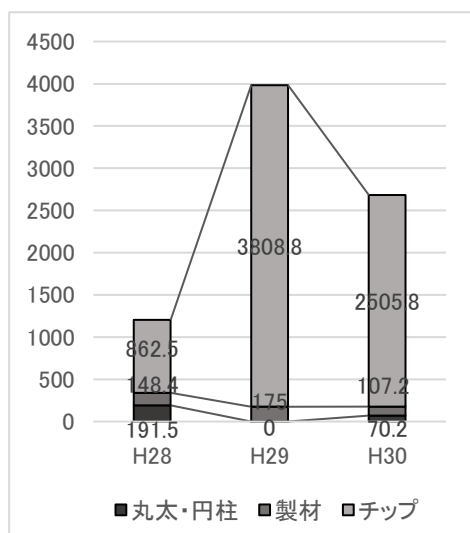
(木材チップの換算係数 全国木材チップ工業連合会より引用)

## 平成 30 年度 市町村の公共土木事業(直営)における木材使用実績について

### 1 木材使用実績(原木換算)

(単位:m3)

丸太・円柱(m3)			製材(m3)			チップ(m3)		
		前年度比			前年度比			前年度比
H28	191.5	-	H28	148.4	-	H28	862.5	-
H29	0	0%	H29	175.0	118%	H29	3808.8	442%
H30	70.2	-	H30	107.2	61%	H30	2505.8	66%



H29 年度は事業数の増加に伴い、チップの使用量が増加。H30 年度は、事業数は H28 年度とほとんど変わらないが、全体的に木材の使用量が減少。

### 2 コンクリート型枠合板実績について

H29・30年度の使用実績はなし

(参考)

原木換算方法

・製材→原木

製材での使用実績をA(m3)として

原木量(m3) =  $A \div 63.7(\%)$  より算出

(平成 28 年木材需給表 木材需給表の作成方法(2)丸太換算率 林野庁より引用)

・チップ→原木

チップでの使用実績をB(m3)として

原木量(m3) =  $B \times 0.3$  より算出

(木材チップの換算係数 全国木材チップ工業連合会より引用)